

「前原さん、すげえな」

今回の小池劇場、私の予想以上です。まだ何もやっていない人がこんなに影響力を持つなんて、、、これが「民主主義」の怖いところだと痛感しました。各党は恐らく各自世論調査を行い、小池さんの希望の党がかなり勝つと予想して地滑り的な動きになっているのでしょうか。私は以前にも書きましたが、大阪都構想のようにやりたい事を掲げて戦った橋下徹さんに比べ、小池さんは（少なくとも私には）今のところ何かをやったというわけではなく、何をやりたいかも良く分からず、「希望」や「しがらみのない」等の抽象的な概念しか示さず、市場問題等他の人のやったことを批判して拍手喝さいを得ている様に見えるので、懐疑的なのです。しかし、国民の支持がある以上彼女のやり方が「民主主義」では正解なのでしょう。

今回、民進党の前原さん（達かな？）が、このように良く分からない小池さんを「民主主義」の観点から評価し、希望の党との合流（若狭さんたちは合流ではなく個別に参加と言っていますが、）を決断したことは、実際の政治を動かすという点では見事だと思う。本来ある程度実績もあり議員数も多い民進党を合流させる事は不本意だと思うのですが、選挙は戦であり、勝てば官軍です。みんなが見ている場面でプライドを捨て決断することは、特に政治家には勇気がいることだと思います。今まで「言うだけ番長」だと思っていた前原さんがこのようなドラスティブな決断をしたことを私は尊敬します。

そして、これは以前から指摘しているように「民主主義」の欠点でもあると思います。国民が物事を良く見極める力が不足しており、空気で支持、不支持を決めるから政治家はそれに従って決断、行動をせざるを得ない面があると思います。「民主主義」は、国民各自が賢くならなければより良い民主主義にはならないと思います。よく言われているように、国民のレベルがその国の政治家の質に反映されるだけだからだと思うからです。そういう私は、「核武装中立」、「県の廃止と市国の2段階」、「一院制」等の考えを持っていますので、今回、安保政策、原発政策、統治機構の観点からもすべてが一致する政党はありませんが、それでもまあ、考えがまだ近い自民党か維新の会に投票するつもりです。

今回の政局は、「当選する力（国民の多数の支持を得る力）」と「政策を行う力（理想を述べ説得し実現する力）」とは別物であり、この両方が備わっていないと政治家としては理想を実現できないという事を示していると感じました。まだ流動的な状況で、現時点で論評することは後で振り返ると的外れとなるかもしれませんが、今回の前原さんの決断は見事だったと私は思いましたので、今回このタイミングで書かせて頂きました。